

令和3年度

黒部市教育センター事業の点検評価

報告書



令和4年3月
黒部市教育センター

目 次

目 次	1
I 令和3年度黒部市教育センター事業点検評価実施方針	2
II 点検評価の結果	
1 児童生徒の学力向上、教員の指導力向上	
(1) 市教委・市教セによる学校訪問	3
(2) 学級経営研修会（市内初任教員）	4
(3) 学力向上研修会	5
(4) 特別支援教育研修会	6
(5) 情報教育実技研修会（情報教育研究委員会）	7
(6) 全国学力・学習状況調査の結果分析とその活用	8
(7) 全国体力・運動能力、運動習慣等調査の結果分析とその活用	9
2 黒部国際化教育の充実	
(1) 黒部国際化教育組織部会	10
(2) 企画・運営・評価部会	11
(3) 外国語教育研究部会	12
(4) 英会話科等担当者定例会	13
(5) 外国語教育の推進に関わる研修会	14
(6) 外国語科等の等の授業の充実及び環境整備	15
(7) 帰国児童生徒教育研究会	16
(8) 帰国児童生徒・外国人児童生徒教育	17
3 生徒指導・教育相談の充実	
(1) いじめ問題等研修会	18
(2) 生徒指導主事等研修会	19
(3) 教育相談の充実と体制づくり	20
(4) 不登校児童生徒に関わる取組、適応指導教室の充実	21
(5) スクールソーシャルワーカー（SSW）事業の活用推進	22
(6) 幼・保・こ・小・中学校の連携事業	23
4 学校教育を支援する調査・研究の推進	
(1) 社会科研究委員会	24
(2) 理科研究委員会	25
(3) 吉田科学館学習（プラネタリウム学習）	26
5 迅速な教育サービスの提供	
(1) 情報提供	27
(2) 視聴覚教材・書籍等の整備や貸し出し、掲示物等の印刷	28

I 令和3年度黒部市教育センター事業点検評価実施方針

1 趣旨

教育センター運営の改善・改革を目指し、事業の執行状況について点検及び評価（以下「点検評価」と言う）を実施する。

2 点検評価の対象

令和3年度の黒部市教育センター事業

3 点検評価の方法

(1) 「令和3年度黒部市教育センターの要覧」に掲げる分野に基づき、個別事業ごとに点検評価シートを作成し、次の5段階による総合評価を行う。

評価	評価の基準等	達成度の目安
AA	目標を十分達成し、期待以上の成果が得られた。	100%以上
A	目標を概ね達成し、ほぼ期待どおりの成果が得られた。	80～100%
B	目標を半分以上達成し、ある程度の成果が得られた。	60～80%
C	目標をあまり達成できず、成果が少なかった。	30～60%
D	目標をほとんど達成できず、成果が少なかった。	0～30%

(2) 黒部市教育センター運営委員会での検討

自己点検評価したものについて、黒部市教育センター運営委員10名において、客観的な視点で検討する。

【黒部市教育センター運営委員名簿】

	氏名	役職
運営委員長	籠浦智彦	小学校長会会長（桜井小学校）
運営副委員長	松島悟	中学校長会会長（明峰中学校） 中学校教育研究会会長
運営委員	林茂行	学校教育課長（黒部市教育委員会）
運営委員	平田恩	学校教育班長（黒部市教育委員会）
運営委員	島田恭宏	こども支援課長（黒部市市民福祉部）
運営委員	佐竹康子	小学校教育研究会会長（荻生小学校）
運営委員	齊藤誠	帰国児童生徒教育研究会会長（中央小学校）
運営委員	愛場幸男	生徒指導連絡協議会会長（清明中学校）
運営委員	寺崎健太郎	小中学校教頭会会長（村椿小学校）



(3) 報告及び公表

点検評価に関する報告書を作成し、これを各運営委員及び各学校に配付するとともに、ホームページの掲載等により公表する。



Ⅱ 点検評価の結果

1 児童生徒の学力向上、教職員の指導力向上

事業・研修会名	1－(1) 市教委・市教セによる学校訪問（通常訪問を含む）
内容・方策	<p>富山県教育委員会や黒部市教育委員会の指導方針に即し、学校運営や教育指導、研修に関して指導助言し、学校課題の解明や教育実践の効果を高めることを目的として学校訪問を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 通常訪問では、各教科等の授業を参観し、部会協議会において、東部教育事務所の指導主事とともに指導助言にあたる。 ○ 1～2学期に市教委・市教セによる学校訪問を実施し、初任教員や若手教員の授業を中心に各教科等の授業を参観し、授業後に懇談を行い、学級経営や「確かな学力の育成」、「生徒指導の機能を生かした授業」等について指導助言する。また、悩み事を聞く場としても活用する。
点検・評価	<p style="text-align: center;">A</p> <hr style="border-top: 1px dashed black;"/> <ul style="list-style-type: none"> ・通常訪問では、東部教育事務所指導主事とともに部会協議会において指導助言を行うことができた。学校運営や授業等について気付いたことをまとめ、各学校に報告した。また、校長研修会において、学校訪問研修の概要（前期・後期）をまとめ、報告した。 ・市教委・市教セによる学校訪問では、授業の改善点だけでなく、具体的な指導場面におけるよい点を認めることで、初任教員や若手教員の自信につながった。また、学級経営や教科指導、生徒指導等に関する課題を共有し、助言にあたることができた。初任教員や若手教員にとっては、日頃困っていることや悩んでいることを話せるよい機会ともなった。
課題・改善	<ul style="list-style-type: none"> ・通常訪問は、各校のニーズに応じて、研修日程や研修内容を主体的に各学校が決定できるようになっている。市教委・市教セによる学校訪問においても、各校、各教員の課題に応じて実施できるように、事前の相談や打合せを丁寧に行っていく必要がある。また、悩みのある教員には、継続的な働きかけを行っていく必要がある。
今後の方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・課題・改善を踏まえ、令和4年度も継続する。

事業・研修会名	1 - (2) 学級経営研修会（市内初任教員）
内容・方策	<p>黒部市内着任の新規採用教員が集まり、学級経営上の諸問題や日々の悩みを話し合うことで、横の連携を強めるとともに、互いに相談し合える体制を構築できるようにする。</p> <p><学級経営研修会（新規採用者対象）></p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 第1回【4/30 参加者8名】 <ul style="list-style-type: none"> ・ 1か月を振り返ってのグループ協議 授業、学級経営、生徒指導、校務に関わること等に対してうれしかったこと、辛いこと、悩んでいること等 ○ 第2回【7/8 参加者8名】 <ul style="list-style-type: none"> ・ 指導講話 講師：平田 恩 学校教育班長 ・ 3か月を振り返ってのグループ協議 学級経営上の悩みや課題に対する手立て等
点検・評価	<p style="text-align: center;">A</p> <hr style="border-top: 1px dashed black;"/> <p>【第1回】4月30日</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 研修会では、指導講話等は設定しないで、参加者が自由に困っていることや悩んでいることを伝え合う時間とした。同じ悩みをもっていることに安心感を得たり、同期としての仲間意識を高めたりすることができた。「相談できる仲間がいると実感できた」「不安に思っていることを言ったり、聞いたりしたことで解決の糸口を知ることができた」等の感想が寄せられた。 <p>【第2回】7月8日</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 指導講話を通して、教師のあるべき姿や目標、日頃心がけていくこと等を学ぶことができた。「横のつながり、縦のつながりの大切さを改めて感じた」「先輩教員に聞いたり、自分で見て真似たりして、つながりを大切にして業務にあたりたい」等の感想が寄せられ、充実した研修会となった。 <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div>
課題・改善	<ul style="list-style-type: none"> ・ 4月早々、早い段階で研修会を開催し、互いに相談し合える横の関係づくりに努める。各時期に応じた悩みや困りごと、相談したいこと等が出てくると思われるので、若手教員を交えた情報交換できる場を定期的に開催していく。
今後の方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・ 課題・改善を踏まえ、令和4年度も継続する。

事業・研修会名	1－(3) 学力向上研修会
内容・方策	<p>新学習指導要領で求められる「主体的・対話的で深い学び」を目指した授業の在り方について、具体的な授業実践をもとに知見を深めるとともに、学習の基盤となる学級経営の在り方について研修を行う。</p> <p>○ 学力向上研修会【8/10宇奈月小学校での開催予定】中止</p> <p>・講師による示範授業と学力向上に関する講演会</p> <p>【講師】 教育実践研究家 菊池 省三 先生</p>
点検・評価	<hr style="border-top: 1px dashed black;"/> <p>・当初、市内小学校において実施する示範授業を参観後、講演会を開催する計画としていた。新型コロナウイルス感染症拡大防止に向けて、県外の講師による研修会であること、オンラインによる示範授業は難しいこと等を踏まえ、中止とした。</p>
課題・改善	
今後の方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・「令和のとやま型教育推進事業」にかかわる実践的な研修に取り組む。推進校が取組について情報共有し、定期的に情報交換できる機会を設定し、市として学力向上への意識が高まるようにする。 ・若手教員を中心に i-checkの活用（改訂版）についての研修を実施し、学びを学級・学年経営等に生かすことができるようにする。


事業・研修会名	1 - (4) 特別支援教育研修会
内容・方策	<p>特別な支援を必要とする児童生徒への教育を推進するため、専門機関等と連携を図りながら、一人一人の教育的ニーズに応じた適切な指導を行えるよう、研修を行う。</p> <p>○ 特別支援教育研修会【8/18 延期とし12/14実施、参加者14名】 【講師】 東部教育事務所 特別支援教育指導員 【演題】 「発達障害のある児童生徒の強みを活かす授業づくり・クラスづくり」</p>
点検・評価	<p style="text-align: center;">A</p> <hr style="border-top: 1px dashed black;"/> <p>・当初は夏季休業中に実施予定であったが、12/14の授業中に実施することになり、受講者を特別支援教育コーディネーターに絞った。希望教員については、資料を配付し、当日の録画を期間限定で学校間共有サーバに保存し、視聴できるようにした。</p> <p>【講話の主な内容】</p> <p>① 「強み」について考える ② 授業づくり・学級づくりにおける「強み」の活かし方について</p> <p>・発達障害の理解を深め、一人一人の能力や可能性を伸ばす指導や支援の在り方を学んだ。児童生徒の特性等に関わる具体的な困りごとをプラスの視点に変えて、学級や授業づくりのアイデアを考えた。参加者からは、「強みを活かす取組を学校でできるとよいと思う。リフレーミングを教員みんなでやりたい」「弱みに目がいきがちなので、改めて子供たちの強みを感じて向き合っていきたい」等の感想が聞かれ、有意義な研修会となった。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div>
課題・改善	<p>・支援を必要とする児童生徒への手立ては、全ての児童生徒に対して効果的である。現場のニーズにあった研修内容や多くの教員が参加できるような日程となるように考えていく。また、特別支援級におけるICTの効果的な活用についても研修していく必要がある。</p>
今後の方向性	<p>・課題・改善を踏まえ、令和4年度も継続する。</p>


事業・研修会名	1－(5) 情報教育実技研修会（情報教育研究委員会）
内容・方策	<p>授業支援ソフトを活用した授業の在り方を学び、利活用を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 第1回情報教育研修会【6/1 参加者15名】内容：学習支援ソフト導入に向けたデモンストレーション ○ 授業支援ソフト「ロイロノート・スクール」の活用研修 オンライン希望研修 【操作編 9/13 参加者66名、 9/30 参加者53名 活用編 11/22（小学校）参加者32名、11/29（中学校）参加者8名 学校間共有サーバーにて1か月間録画視聴可】
点検・評価	<p style="text-align: center;">B</p> <hr style="border-top: 1px dashed black;"/> <ul style="list-style-type: none"> ・年度当初の計画にはなかったが、市教委、校長会との連携により、授業支援ソフトの導入に向けた研修会や活用に向けてのオンライン希望研修を計画、実施した。 【第1回】6月1日 ・情報教育研究委員を対象とした「ロイロノート・スクール」と「スカイメニュー」の機能や使い方についてオンラインによるデモンストレーションを実施した。その後、情報教育研究委員を中心に、各学校ごとにソフトの検討を行った。 【活用に向けた研修】 ・オンラインにて、操作編を2回計画し、実際に体験しながら操作を学んだ。操作編を受けて、各学校の活用状況を把握し、ニーズに応じた研修となるように、活用編は小学校と中学校に分けて実施した。多くの方に参加していただけるように、録画対応の許可を得、1か月間学校間共有サーバーに保存し、視聴できるようにした。 ・2学期の学校訪問研修では、ロイロノートを活用した協働的な場面や特別支援教室での個に応じた活用場面が見られ、利活用が図られていることが分かった。 【情報教育研究委員会の開催】2月17日 中止 ・各校のロイロノートの活用事例を情報交換する予定であったが中止とし、活用事例の資料を各学校に配付した。
課題・改善	<ul style="list-style-type: none"> ・活用に向けては学校間に差がある。情報教育研究委員会にて、活用状況や活用事例を情報交換するなど、学校間のつながりを構築しながら、ICTの効果的な活用を図っていく必要がある。
今後の方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・令和4年度は、「協働的な学び」「個別最適な学び」の推進に向けて、ICTの効果的な活用を図り、事例を集約していく。


事業・研修会名	1－(6) 全国学力・学習状況調査の結果分析とその活用
内容・方策	<p>全国学力・学習状況調査の結果等を生かし、市内小・中学校の児童生徒の学力向上や基本的な生活習慣の定着を図ることができるように支援する。</p> <p>○ 全国学力・学習状況調査の結果分析等を行い、校長研修会で概要を報告する。さらに報告書としてまとめ、各学校に配付する。報告書は小・中学校における学力向上のための参考となる内容にする。</p>
点検・評価	<p style="text-align: center;">A</p> <hr style="border-top: 1px dashed black;"/> <ul style="list-style-type: none"> ・「令和3年度 全国学力・学習状況調査報告書」では、教科に関する調査（国語、算数・数学）や児童生徒質問紙調査の結果について、その概要を冊子にし報告した。 ・結果の分析では、「設問別正答率の学校間の開き」「国語と算数・数学の相関関係」「児童・生徒質問紙調査結果と各教科の調査結果との相関関係」「児童生徒質問紙調査の経年比較」等を示し、小・中学校が学力向上に向けた取組をする際に参考となるデータを提供した。各教科の問題については、全国と比べて平均正答率が低い問題について分析し、提供した。 ・教科に関する調査においては、小・中学校ともに、全国の平均正答率を上回っていた。国語科では、読む能力や言語についての知識・理解・技能を問う問題に課題がみられた。算数・数学科では、知識・技能を問う問題に課題がみられた。 ・児童生徒質問紙調査においては、学習習慣や自己有用感、算数・数学への関心や意欲に課題がみられた。
課題・改善	<ul style="list-style-type: none"> ・市内の小・中学校が学力向上に向けた取組をする際に参考となるデータを提供できるように、校長研修会や教務主任会等でどんなデータが必要なのか意見を聞き、報告書に反映していく。活用については、実際に各校の研修に携わる研究主任や教務主任に周知し各学校の実態を情報交換する機会が必要であると考えられる。
今後の方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・課題・改善を踏まえ、令和4年度も継続する。


事業・研修会名	1－(7) 全国体力・運動能力、運動習慣等調査の結果分析とその活用
内容・方策	<p>全国が実施している「令和3年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査」や富山県が実施している「令和3年度富山県児童生徒体力・運動能力調査」を生かし、市内小・中学校の児童生徒の体力・運動能力の向上や基本的な生活習慣の定着を図ることができるように支援する。</p> <p>○ 調査の結果分析を行い、校長研修会で概要を報告し、報告書としてまとめ、各学校に配布する。報告書は小・中学校における体力・運動能力向上のための参考となる内容にする。</p>
点検・評価	<p style="text-align: center;">A</p> <hr style="border-top: 1px dashed black;"/> <p>・体力調査の結果を「令和3年度 体力・運動能力、運動習慣に関する調査結果の概要」としてまとめ、各校に配付した。報告書では、本市児童生徒の実技調査や質問紙調査の結果、各項目の経年比較や入学年度における経年比較等を示し、今後の参考資料とした。</p>
課題・改善	<p>・今回の結果を来年度の教育計画に生かすことができるように、なるべく早く結果の概要を知らせていく。また、体育主任等で意見交換をするなど、結果を活用する場を設定していくが必要である。</p>
今後の方向性	<p>・課題・改善を踏まえ、令和4年度も継続する。</p>



2 黒部国際化教育の充実

事業・研修会名	2－(1) 黒部国際化教育組織部会
内容・方策	<p>黒部国際化教育の各事業について、方針や内容等について審議する。また、企画・運営・評価部会、外国語教育研究部会、英会話科等定例会で検討されたことについて情報共有を図る。</p> <p>○ 年2回開催し、以下のことについて協議する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和3年度 英語の指導に関する年間指導計画について ・令和3年度の成果や課題、令和4年度の方針について
点検・評価	<p style="text-align: center;">A</p> <hr style="border-top: 1px dashed black;"/> <p>【第1回】 7月8日</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今年度の黒部国際化教育の全体計画や英語の指導に関する年間指導計画、英語サマーキャンプや姉妹都市交流事業について協議した。授業における「Picture Card」の活用や「スモールトーク」の実施状況、姉妹都市交流の実施時期や交流の在り方等について、ご意見をいただいた。 <p>【第2回】 は3月4日開催</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今年度の黒部国際化事業における効果測定や次年度に向けた年間指導計画の改訂等について協議した。効果測定においては、中教研学力調査や英語検定の受検率及び取得率、児童生徒への英語の指導に関する意識調査」について、作成した資料をもとに実態を説明した。「分かる・できる授業づくりのために、学習指導要領に基づいた付けたい力を明確にする」、「小・中学校の学習のつながりを意識するために、小・中学校の教員が互いに授業を参観する機会があるとよい」、「来年度から入るデジタル教科書の活用について研修が必要である」など、様々なご意見をいただきました。 
課題・改善	<ul style="list-style-type: none"> ・取組の重点を明確にし、各専門部会の組織を生かしながら指導方法の改善や各種事業を展開していく。
今後の方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・公開授業の実施についてや令和5年度以降の黒部国際化教育の在り方について、新年度に入って、市教委及び校長会と協議をしていく。


事業・研修会名	2－(2) 企画・運営・評価部会																		
内容・方策	<p>外国語科等の取組が充実するよう、重点目標の共通理解を図るとともに、黒部市における取組状況の共通理解、成果と課題の確認等を行う。(参加者は市内全小・中学校の教頭)</p> <p>○ 年2回開催し、以下のことについて協議する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・英語に関するアンケート、英検3級以上取得者調査、中教研学力調査英語科聞き取り調査の結果、「Enjoy talking」と「Speaking test」の集計等について ・令和3年度の英語に関する指導の成果と課題 ・令和4年度の英語に関する指導の年間指導計画について 																		
点検・評価	<p style="text-align: center;">B</p> <hr style="border-top: 1px dashed black;"/> <p>【第1回】7月13日</p> <ul style="list-style-type: none"> ・外国語科等の指導内容及び方法、黒部国際化教育の事業について、共通理解を図った。 ・英語の指導に関する年間指導計画について、令和2年度からの変更点を確認した。 ・各校で授業の様子や日常的に英語に親しむ環境づくりについての取組等、情報交換した。 <p>【第2回】2月15日 中止</p> <ul style="list-style-type: none"> ・英語に関するアンケートや英検3級以上の取得率等から、英語の指導における成果と課題について、紙面にて教頭先生方からご意見をいただき、集約した。 <p>【英検3級以上の取得率(%)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・取得率及び受験率は昨年度より低下している。 <p>※第2次黒部市総合振興計画前期基本計画の中間目標(2022年)45.0%</p> <table border="1" data-bbox="464 1503 1294 1697" style="width: 100%; text-align: center;"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>H29</th> <th>H30</th> <th>R1</th> <th>R2</th> <th>R3</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>取得率(%)</td> <td>41.3</td> <td>33.8</td> <td>39.6</td> <td>37.9</td> <td>33.2</td> </tr> <tr> <td>受験率(%)</td> <td>45.3</td> <td>35.7</td> <td>50.4</td> <td>41.5</td> <td>36.4</td> </tr> </tbody> </table> 	年度	H29	H30	R1	R2	R3	取得率(%)	41.3	33.8	39.6	37.9	33.2	受験率(%)	45.3	35.7	50.4	41.5	36.4
年度	H29	H30	R1	R2	R3														
取得率(%)	41.3	33.8	39.6	37.9	33.2														
受験率(%)	45.3	35.7	50.4	41.5	36.4														
課題・改善	<ul style="list-style-type: none"> ・市全体の課題を共通理解し、その解決に向けての方策を考え、全小・中学校で取り組んでいく必要がある。特に、新学習指導要領に基づく付けたい力を明確にした授業づくり、コミュニケーション活動を大切にした授業づくりを推進していく。 																		
今後の方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・課題・改善を踏まえ、令和4年度も継続する。 																		


事業・研修会名	2－(3) 外国語教育研究部会
内容・方策	<p>今年度の年間指導計画における成果や課題等を集約し、より効果的な指導計画を作成することで、教員の授業力向上と児童生徒のコミュニケーション能力の育成を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 年2回（7月、12月）開催する。 ○ 外国語教育研修会（魚津地区相互参加型研修会）の企画・運営を行う。 ○ 年間指導計画の見直し及び作成を行う。 ○ 部員は小・中各1名（中学校は英語科教員）及び小学校専科教員とする。
点検・評価	<p style="text-align: center;">A</p> <hr style="border-top: 1px dashed black;"/> <p>【第1回】 7月26日</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 昨年度実施した黒部国際化教育に関するアンケート結果を確認し、外国語科における「読むこと」「書くこと」の現状や英語の指導に関する工夫や悩み等について、グループに分かれて情報交換をした。また、8月5日に開催する外国語教育研修会にて取り上げる内容について意見交換し、当日の役割分担をした。  <p>【第2回】 12月27日</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 次年度の年間指導計画の作成に向けて、各学校からもち寄った意見及び英会話科等定例会で出された意見をもとにして、変更すべき点を小学校と中学校部会に分かれて協議し、改訂作業を行った。また、「Picture Cardの活用」や「英語に親しむ環境づくり」についての各校の取組を情報交換した。
課題・改善	<ul style="list-style-type: none"> ・ 来年度は、全ての小・中学校に外国語科のデジタル教科書が配付される予定である。デジタル教科書の活用について、研修を実施していく。
今後の方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・ 課題・改善を踏まえ、令和4年度も継続する。

事業・研修会名	2－(4) 英会話科等定例会
内容・方策	<p>月1回定例会を開催し、ALT、英会話講師、市担当者、センター職員が年間計画に基づいて研修を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 授業充実のための研修、英語サマーキャンプの企画・運営、年間指導計画の見直し等を中心に行う。 ○ 1月下旬から順次ALT、英会話講師との面接を行い、業務の状況を確認したり、悩みの相談にのったりする。
点検・評価	<p style="text-align: center;">A</p> <hr style="border-top: 1px dashed black;"/> <ul style="list-style-type: none"> ・年間指導計画に基づいて、毎月1回、定例会を開催した。(9月と1月中止) ・担任・英語専科教員との打合せ、授業における指導者の役割等についての課題や改善点等をグループに分かれて話し合うことを通してALTや英会話講師の指導力の向上を図った。7月には「授業の達人DVD」を活用し、6年生の授業を視聴した。授業の進め方のよさを学ぶとともに、中学校の英会話講師にとって、小・中連携の在り方を考えるよい機会となった。 ・研修内容に合わせたグループ編成を考え、意見交換を図った。グループ協議の後は、必ず全体で意見を共有し、共通理解を図った。 ・市教委担当者が、英語サマーキャンプ(中止)や児童センターでの英語教室の開催について説明することで、今後の見通しをもつことができた。 ・他校への授業観察を希望するALTや英会話講師が増え、互いのよさを学ぶよい機会となっている。1学期は5件、2学期は7件の授業観察があった。 ・英語専科教員が定例会に参加する機会を設けた。外国語活動から外国語科、さらには中学校へのスムーズな接続に向けて、顔を合わせて意見交換を行った。 
課題・改善	<ul style="list-style-type: none"> ・ALTや英会話講師等が授業を通して、専門家から学ぶことができる機会を設けていく。また、デジタル教科書の活用研修を実施していく。
今後の方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・課題・改善を踏まえ、令和4年度も継続する。

事業・研修会名	2－(5) 外国語教育の推進に関わる研修会
内容・方策	<p>学習指導要領の正しい理解と黒部市外国語教育の指導の充実を図ることを目指して研修を行う。</p> <p>○ 外国語教育研修会（魚津地区相互参加型研修）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 8月5日14:00～16:00 明峰中学校 さくらホール ・ 演題「英語の大好きな児童生徒の育成を目指して～小・中連携の視点から～」 ・ 講師 富山大学大学院 教職実践開発研究科 教授 岡崎 浩幸 先生
点検・評価	<p style="text-align: center;">A</p> <hr style="border-top: 1px dashed black;"/> <p>【講話の主な内容】</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 小・中連携の主要な要素 ② 小・中共通の学習指導内容 ③ 子供の学びの質を高める授業改善 <p>【参加者の感想】</p> <p>・参加者からは、「書く・読むが入ったことで指導に迷いがあったが、音声中心のやりとりを大切にしていこうことを改めて感じた」「スモールトークの扱い方がよく分かった。生徒の興味をもてるような活動をどんどん取り入れていきたい」「今の中学生は音に敏感で発音もスムーズにできている。もっと音声を聞く、目的をもって聞く場面を工夫したい」等の感想が寄せられた。また、他市町村の受講者は、黒部市の先生方と研修を共にすることによって、黒部市の取組が理解でき、大変刺激になったという感想も寄せられた。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div>
課題・改善	<p>・前年度の「黒部国際化教育に関するアンケート（学校質問紙）」結果や実際の授業にみられる課題に応じた研修会の企画が求められる。外国語教育研究部員自らが推進役となり、ワークショップの企画・運営に主体的に取り組めるようにしていく必要がある。</p>
今後の方向性	<p>・令和4年度は外国語教育研究部員をリーダーとしたワークショップを取り入れた研修とし、魚津地区教育センター協議会の相互参加型研修として実施する。</p>

事業・研修会名	2－(6) 外国語科等の授業の充実及び環境整備
内容・方策	<p>各校の取組を紹介したり、黒部を題材とした教材を扱ったりして、授業の充実と環境整備にあたる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 黒部市の目標を根底に据えた授業づくりや環境づくりについて、企画・運営・評価部員や外国語教育研究部員等と情報交換を行う。 ○ ふるさと黒部のことを英語で豊かに語ることでできる生徒を育成するための“<i>This is Kurobe</i>”を市内中学校2年生が作成し、市内小・中学校に配布する。
点検・評価	<p style="text-align: center;">A</p> <hr style="border-top: 1px dashed black;"/> <ul style="list-style-type: none"> ・「黒部国際化教育に関するアンケート」を実施し、児童生徒の回答及び学校質問紙の回答を集計した。それをもとに、外国語教育の充実に向けて、企画・運営・評価部会から意見をもらった。 ・外国語科等の取組について、成果と課題を確認し、「英語の指導に関するまとめ」を作成し、各校に配布した。 ・今年度も市内中学校の2年生が教材“<i>This is Kurobe</i>”の改訂を行った。5月から作成に入ったことで、生徒に興味・感心をもたせるための導入に工夫が見られ、生徒はゆとりをもって作成に取り組むことができた。作成紹介場所が1カ所（北方領土史料室）増えたり、表現が豊かになったりと、内容が充実した。 ・“<i>This is Kurobe</i>”のデータを学校間共有サーバーにおくことで、小学校では大きさを自由に加工して、授業で活用することができた。
課題・改善	<ul style="list-style-type: none"> ・“<i>This is Kurobe</i>”は、中学校第2学年で作成し、第3学年において主要な教材として活用することになっているが、内容がマンネリ化してきている。生徒が意欲的に取り組めるように、内容及び活用の仕方を工夫していく必要がある。 ・「企画・運営・評価部会」や「外国語教育研究部会」において情報交換をするには、各部員に各校の授業の状況を把握してもらう必要がある。余裕をもって案内文を出し、各校の授業を参観し、意見をもって参加できるようにする必要がある。
今後の方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・課題・改善を踏まえ、令和4年度も継続する。

事業・研修会名	2－(7) 帰国児童生徒教育研究会
内容・方策	<p>帰国児童生徒及び外国人児童生徒が、日本の学校生活や生活様式に適応できるように支援する。(黒部市とYKKからの補助金と各校からの会費等により研究活動を進める)</p> <p>① 保護者会やサマースクールの開催、会報「Access」の発行を行う。</p> <p>② 国際理解教育の充実を図るため、県外研修報告や全体研修会を行う。</p> <p>③ 各校および関係機関・保護者との連携を密にし、帰国児童生徒への援助・相談を充実させる。</p>
点検・評価	<p style="text-align: center;">A</p> <hr style="border-top: 1px dashed black;"/> <p>①の活動について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第1回保護者会(6/19 中央小学校)では、学校生活や学習に関する不安や悩み等を話し合った。保護者3名(帰国1名、外国籍2名)が参加した。 ・第2回保護者会(12/4 中央小学校)では、「紙コップアドベントカレンダー」を親子で作り、交流を深めた。保護者4名(帰国2名、外国籍2名)、児童4名が参加。 ・サマースクール(8/3 北方領土史料室、陶芸体験)では、保護者6名(帰国2名、外国籍4名)、児童6名が参加した。親子で陶芸体験をし、皿やカップ等を作成した。  <p>②の研修会について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・帰国児童生徒教育研究会 全体研修会 「外国籍の保護者が抱える困りごとや不安～日本語教室in黒部における参加者の声～」 講師:日本語教室in黒部 代表 家城 香織 氏 ・国際理解教育公開研修会 全体会 「国際理解教育における教師の役割」 富山大学大学院教職実践開発研究科長 岡崎 浩幸 先生 <p>③の援助・相談について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・会報Accessや教育センターのホームページ、YKK教育相談室だよりで、一時帰国等の家庭にも広く情報を発信している。
課題・改善	<ul style="list-style-type: none"> ・国際理解教育について参加者が知見を深めることができるような研修内容を検討する。講師との打合せを綿密に行う。 ・新型コロナウイルス感染症拡大防止対策に留意しながら、保護者会、サマースクール等を行った。制約がある中でも、有意義な活動内容を工夫していく。
今後の方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・課題・改善を踏まえ、令和4年度も継続する。

事業・研修会名	2－(8) 帰国児童生徒・外国人児童生徒教育
内容・方策	<p>帰国・外国人児童生徒がスムーズに学校生活を送ることができるように、学校・市教委と連携して指導にあたる。</p> <p>○ 帰国児童生徒に対しては、一人一人に応じた学習指導を行い、外国人児童生徒に対しては、日本語指導を中心に行う。</p>
点検・評価	<p style="text-align: center;">A</p> <hr style="border-top: 1px dashed black;"/> <ul style="list-style-type: none"> ・中央小学校では、1年生1名、5年生1名、6年生1名の外国人児童について、週3日付き添い指導をしている。学習内容や教師の指示を理解していないと思われる場合に、分かりやすい言葉で説明することで、自信をもって活動に参加することができている。 ・たかせ小学校では、1年生1名の外国人児童について、週1日3時間の付き添い指導(内1時間日本語個別指導)をしている。教室での学習内容をより理解できるようにするために、担任と連携し、ひらがなやカタカナ、物の名前、漢字の読み書きの指導をした。 ・市内小学校に、外国の文化や生活についての掲示を貸し出すことにより、国際理解のきっかけづくりをした。(今年度2校利用) 
課題・改善	<ul style="list-style-type: none"> ・学級担任と連携を図り、個々の児童に応じた指導を継続する。 ・個別指導や付き添い指導をしている外国人児童のよさを生かしながら学習ができるように、学習や学校生活の様子を担任等と共有していく。 ・帰国・外国人児童生徒が編入してきた場合、効果的な対応ができるように、これまでの個別指導において効果のあった対応を累積し整理しておく必要がある。
今後の方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・課題・改善をふまえ、令和4年度も継続していく。

3 生徒指導・教育相談の充実

事業・研修会名	3-(1) いじめ問題等研修会
内容・方策	<p>いじめ問題について、「黒部市いじめ防止基本方針」に即し、組織的な対応ができるよう研修を深める。</p> <p>○ 「いじめ問題等研修会」年2回実施。(4月19日、2月15日)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小・中学校教頭を対象に、いじめの未然防止や対応について研修を深める。
点検・評価	<p style="text-align: center;">B</p> <hr style="border-top: 1px dashed black;"/> <p>【第1回】 4月19日 講師:黒部市教育委員会 学校教育班長 平田 恩 先生</p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和2年度の市内小・中学校のいじめ、不登校の状況について、資料を基に共通理解し、どちらも早急に取り組まなければならない喫緊の課題であるという認識を明確にすることができた。 ・年度当初に当たり、黒部市教育の方針や教頭の役割等について、全小・中学校教頭が共通理解を図り、職務上大切にすべきことを改めて確認した。 <p>【第2回】 2月15日 中止 講師:黒部市小・中学校SSW 大坪 剛 先生</p> <ul style="list-style-type: none"> ・資料を配付し、各学校ごと周知してもらう。
課題・改善	<ul style="list-style-type: none"> ・2回目のスクールソーシャルワーカーの講話は実現できなかったが、スクールソーシャルワーカーより事例をもとにした講話は、児童生徒理解及び保護者対応の在り方、スクールソーシャルワーカーの役割や活用の周知等を学ぶよいきっかけになると考える。
今後の方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・課題・改善を踏まえ、令和4年度も継続する。

事業・研修会名	3－(2) 生徒指導主事等研修会
内容・方策	<p>生徒指導主事等の資質・能力の向上を目的とし、日常的に起こり得る課題への対応について、年4回研修会を開催する。児童生徒を9年間で育てるという視点から、小・中連携の意識を高め、演習は中学校区ごとのグループで情報交換や生徒指導上の課題の共有を図る。</p> <p>【第1回 5/19】「すべての子どもの幸せのために～就労に向けた学齢期の支援～」講師:上市町教育センター 発達障害支援アドバイザー 石仙 美幸 先生</p> <p>【第2回 7/14】「SNS等における最新のネット事情や対処方法について」講師:黒部警察署 生活安全課 坪川 智彦 係長</p> <p>【第3回 11/12】「不登校・不登校傾向の児童生徒への組織的な対応及び保護者との信頼関係づくり」講師:東部教育事務所 主任生活指導主事 古市 茂 先生</p> <p>【第4回 2/15】「黒部市内の学校不適応問題を軽減するために」講師:黒部市小・中学校SSW 大坪 剛 先生</p>
点検・評価	<p style="text-align: center;">A</p> <hr style="border-top: 1px dashed black;"/> <p>【第1回】5月19日</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特別な支援を要する児童生徒の特性やその支援の仕方、保護者の思いについて、生徒指導の枠組みを広げ、特別支援教育との連携を図りながら支援していくことの大切さを学んだ。 ・健全活動少年団顧問会の開催 市教委 平田班長、黒部警察署 坪川係長、黒部市防犯協会 山田事務局長 参加 <p>【第2回】7月14日</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全国及び県内のSNSトラブルや少年犯罪・非行等の現状を理解し、教育現場と警察等の関係機関と連携を図りながら保護者に働きかけていくことの大切さを確認した。 <p>【第3回】11月12日</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教師間の連携、情報共有、チームで対応することの大切さを事例をもとにお話しいただいた。生徒指導の根底には、児童生徒理解があることを改めて確認した。 <p>【第4回】2月15日 中止 資料の配付</p>
課題・改善	<ul style="list-style-type: none"> ・校区ごとの情報交換の時間を確保することが大切である。特に1回目は、講師を招聘せずに、時間をとって、児童生徒の情報交換や各校の課題、指導方針等を共有できるようにする。また、講演内容は学校のニーズに添ったテーマや生徒指導提要の改訂にあたっての基本的な考え方「積極的な生徒指導の充実」等の理解を図るテーマとする。
今後の方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・課題・改善を踏まえ、令和4年度も継続する。

事業・研修会名	3－(3) 教育相談の充実と体制づくり																																
内容・方策	<p>適応指導教室「ほっとスペース」と教育センターにおいて、来所、電話等による教育相談を実施し、保護者、児童生徒、教員の悩みや課題の解決に向けて支援を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 保護者向けの教育相談の案内を学校を通じ、年4回配布する。 ○ 保護者からの教育相談を受け、相談内容によっては学校に連絡したり、学校と協議したりして、保護者や児童生徒の支援にあたる。 ○ 市教委・市教セによる訪問や学校訪問において、教員の悩みや課題を把握し、要望に応じて継続的な支援に繋げる。 																																
点検・評価	<p style="text-align: center;">A</p> <hr style="border-top: 1px dashed black;"/> <p>・相談件数と主な内容（令和4年2月末現在）</p> <table border="1" data-bbox="464 853 1394 1084"> <thead> <tr> <th rowspan="2"></th> <th rowspan="2">保護者</th> <th rowspan="2">学校</th> <th rowspan="2">生徒 (卒業 生含)</th> <th colspan="5">内 訳</th> </tr> <tr> <th>不登校</th> <th>人間関係</th> <th>子育て</th> <th>進路</th> <th>他</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>適応指導教室</td> <td>57</td> <td>22</td> <td>11</td> <td>39</td> <td>14</td> <td>9</td> <td>37</td> <td>30</td> </tr> <tr> <td>教育センター</td> <td>21</td> <td>6</td> <td>2</td> <td>9</td> <td>3</td> <td>4</td> <td>5</td> <td>10</td> </tr> </tbody> </table> <p>※来所による相談、電話やメールによる相談を含む。内訳は複数回答。 その他：子供の特性に関すること、学習に関すること、健康に関すること等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校不適應問題、子育て、学校や担任との関係等、寄せられた相談内容については、しっかりと受け止め丁寧に対応するように努めた。緊急性のある相談内容については、相談者の了解のもと学校に連絡するなど、迅速な連携を心がけた。 ・学校からの要望により、定期的に学校に出向き児童生徒への支援を行った。 ・カウンセリング指導員が適応指導教室を定期的に訪問し、本人と関わることにより、学校への登校につながった。 ・適応指導教室指導員やSSWとの連携を密にし、効果的な支援につなげた。 ・保護者からの相談電話では、教育相談の案内を見て連絡される保護者が多かった。保護者の不安や悩みを受け止める場の一つとして、有効であると考えた。 		保護者	学校	生徒 (卒業 生含)	内 訳					不登校	人間関係	子育て	進路	他	適応指導教室	57	22	11	39	14	9	37	30	教育センター	21	6	2	9	3	4	5	10
	保護者					学校	生徒 (卒業 生含)	内 訳																									
		不登校	人間関係	子育て	進路			他																									
適応指導教室	57	22	11	39	14	9	37	30																									
教育センター	21	6	2	9	3	4	5	10																									
課題・改善	<ul style="list-style-type: none"> ・教育センター所員や適応指導教室指導員の面談技術や心理療法的な知見を高めていく必要がある。また、相談内容によっては市教委や関係機関と連携して取り組むことが必要である。 																																
今後の方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・課題・改善を踏まえ、令和4年度も継続する。 																																



事業・研修会名	3－(4) 不登校児童生徒に関わる取組、適応指導教室の充実
内容・方策	<p>適応指導教室「ほっとスペース」において、通所している小・中学校の不登校児童生徒やその保護者に対して、学校と連携を図りながら様々な指導、支援を行い、児童生徒の集団生活や学校生活、社会生活への適応に対する支援を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 通所児童生徒の実態に即し、成長に役立つ活動を実施する。 ○ 相談活動により保護者の児童生徒理解を深め、保護者自身の心や家庭生活の安定を図る。 ○ 関係小・中学校及び市教委、関係機関と連携しながら児童生徒の支援を行う。
点検・評価	<p style="text-align: center;">A</p> <hr style="border-top: 1px dashed black;"/> <ul style="list-style-type: none"> ・今年度通所した児童生徒 13名（小学生8名、中学生5名内一人10月転校）である。 ・通所している児童生徒の状況に合わせ、個別の指導計画を立てて指導にあたった。市教セから適応指導教室に適宜訪問し、指導員とこまめに連絡・相談することにより、児童生徒や保護者への適切な支援・対応に努めた。また、在籍校には、月ごとに児童生徒の活動報告を届けた。 ・学期の始めには、SSWを交えて、通所児童生徒への支援・対応について情報を共有した。 ・適応指導教室において、総合教育センターからの適応指導教室訪問を年に3回実施し、児童生徒の支援について実際に学んだ。 ・月に1回程度、保護者と指導員等、保護者同士が懇談する場（おしゃべりカフェ）を設けている。参加者は、延べ31名。8月と2月はコロナウイルス感染症拡大防止のため中止とした。 ・毎月、各学校の欠席の多い児童生徒数を取りまとめ、黒部市全体の結果を市教委や校長研修会で報告した。
課題・改善	<ul style="list-style-type: none"> ・適応指導教室において、発達障害等、特性を抱え学校不適応となっている児童生徒の通所が増加している。各校の特別支援教育コーディネーターや中学校のカウンセリング指導員・協力員との連携や相談員の研修への参加により、一人一人に応じた効果的な支援に繋げていく必要がある。各学校との定期的な情報交換の日の設定についても考えていきたい。
今後の方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・課題・改善を踏まえ、令和4年度も継続する。

事業・研修会名	3-(5) スクールソーシャルワーカー（SSW）事業の活用推進
内容・方策	<p>不登校や自傷行為等の学校・家庭が抱える課題に対応するため、SSWを派遣し、問題を抱える児童生徒が置かれた環境への働きかけや関係機関との連携・調整等を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 各中学校及び教育センター所属のSSWが学校の要請に応じて、家庭訪問したり電話連絡したりして、問題を抱える児童生徒やその保護者との面談を行う。 ○ 関係機関等とのネットワークを活用し、学校では発見しにくい家庭内の問題や子供の問題等について協議し、支援内容を学校に連絡したり、学校で一緒に協議したりする。 ○ SSWが小・中学校を訪問し、SSWの役割についての説明や活用促進の呼びかけを行う。
点検・評価	<p style="text-align: center;">A</p> <hr style="border-top: 1px dashed black;"/> <p><大坪SSW> 2中学校区所属 毎週火曜日は清明中学校と校区の小学校、水曜日は明峰中学校と校区の小学校を基本として巡回勤務した。3月末までの勤務見込み 460時間（県420h、市40h） 働きかけをした対象者(実数) 児童生徒21名、保護者7名 家庭訪問（延べ回数） 46回 ケース会議（延べ回数） 7回</p> <p><板東SSW> 教育センター所属 年間を通して明峰中学校を勤務の基本とし、必要に応じて他校の事案に対応した。 3月末までの勤務見込み 125時間（県105h、市20h） 働きかけをした対象者(実数) 児童生徒9名、保護者5名 家庭訪問（延べ回数） 22回 ケース会議（延べ回数） 5回</p> <ul style="list-style-type: none"> ・個別指導（陶芸教室）や面談、家庭訪問により児童生徒や保護者に働きかけたり、教員に助言したりすることを通して、学校不適応の状況改善に繋げることができた。 ・社会福祉協議会主管の「くろベネット」によるケース会議にも参加し、支援体制を広げるためのネットワークづくりを行った。 ・就学時健診での保護者への広報活動等を通して、学校や保護者にSSWの役割について広く知らせることができた。
課題・改善	<ul style="list-style-type: none"> ・毎月の計画表を学校に事前に配付する。各校への定期的な巡回は基本とし、必要な学校には連絡・調整を図りながら、重点的に支援できるような体制を整える。
今後の方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・課題・改善を踏まえ、令和4年度も継続する。

事業・研修会名	3－(6) 幼・保・こ・小・中学校の連携事業
内容・方策	<p>子供たちが健全に成長できるよう、幼稚園・保育所・こども園と小学校、小学校と中学校での情報共有や連携を深めるための方策を支援する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 学校（園）訪問において、幼稚園、こども園、小学校・中学校の連携の視点をもって指導助言にあたる。 ○ 中学校区ごとに生徒指導や教科指導に関する共通した方針を立てて実践していくことができるように、各種研修会での情報交換の在り方を工夫する。
点検・評価	<p style="text-align: center;">B</p> <hr style="border-top: 1px dashed black;"/> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒指導に関する研修会や協議会においては、中学校区ごとにグループを編成し、小・中学校教員が情報交換や指導方針を共有できるようにした。 ・各校の生徒指導におけるケース会議において、SSWや中学校のカウンセリング指導員・協力員が参加して、情報を共有し、切れ目のない指導・支援ができるように配慮した。 ・理科研究委員会や外国語教育研究委員会、情報教育研究委員会等において、小・中の教員が共に研究や研修に取り組む中で、それぞれの専門性や経験から得た知見を交流できるよう配慮した。 ・幼稚園、こども園での訪問研修では小学校との連携・接続、小学校の訪問研修では中学校への連携・接続を念頭に置いた指導助言に努めた。
課題・改善	<ul style="list-style-type: none"> ・幼児期の教育が小学校低学年の学習に円滑に接続されるように、小学校の通常訪問において、接続の視点をもって指導助言にあたる。 ・生徒指導主事等研修会や特別支援教育研修会等で、小・中学校の切れ目のない指導・支援を意識して、研修会や研究委員会等の内容を設定していく。
今後の方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・課題・改善を踏まえ、令和4年度も継続する。

4 学校教育を支援する調査・研究の推進

事業・研修会名	4-(1) 社会科研究委員会
内容・方策	<p>小学3年・4年の社会科で学ぶ身近な地域や市(県)の社会的事象について理解を深め、地域社会に対する誇りと愛情を育てるための学習資料を作成する。(社会科研究委員 小学校9名)</p> <p>○ 学習資料「わたしたちの黒部市(第3学年)・(第4学年)」について、新学習指導要領と採択教科書に準拠した改訂作業を行う。</p>
点検・評価	<p style="text-align: center;">A</p> <hr style="border-top: 1px dashed black;"/> <p>○ 委員会は2回の開催(6/17、11/24)</p> <p>○ 郷土に学ぶ研修会の実施(7/27)</p> <p>【第1回】6月17日</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本年度の活動計画を立案した。「わたしたちの黒部市」と関連付けた郷土に学ぶ研修会のコース設定、「わたしたちの黒部市」改定に向けた役割分担や作業日程について確認した。 <p>【郷土に学ぶ研修会】7月27日 参加人数16名(市内小・中学校教員8名 社会科研究委員9名)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・黒部市の自然や歴史の特色を理解すること、市内の文化財や施設等を見学し、学習指導に生かすことを目的に実施した。 ・研修1は北方領土への理解を深めるために、元島民の方から話を聞き、北方領土史料室を見学した。研修2では、十二貫野用水について、黒部川左岸土地改良区工務管理課職員に解説してもらいながら第一分水や竜ノ口、十二貫野湖の見学を行った。参加者からは、「現地研修は有意義である。毎年続けてほしい」「中学校でも地域教材として取り上げ、教材化する価値があると感じた」という感想が聞かれた。 <p>【第2回】11月24日</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「わたしたちの黒部市」の改訂原稿の検討を実施した。
課題・改善	<ul style="list-style-type: none"> ・郷土を学ぶ研修会については、若手教員が増えていく現状を考えると継続していくべきと考える。社会科の地域教材の開発を進める上で、新年度の早い時期に開催する。 ・教科書の内容に準拠し、かつ最新の資料となるよう改訂を進めてきた。改訂については、2年に1回にするか、教科書の改訂年に合わせて4年に1回とするか検討する必要がある。
今後の方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・課題・改善を踏まえ、令和4年度は開催する。令和5年度は次年中に「わたしたちの黒部市」の改訂を含め、社会科研究委員会の開催の有無を決定する。

事業・研修会名	4－(2) 理科研究委員会
内容・方策	<p>小学校における理科の学習活動を充実させ、児童の理科の見方・考え方の育成に資するため、観察、実験に活用できる資料やワークシート等を作成したり、指導力向上を目指す実技研修を行った。 (理科研究委員 小学校6名、中学校2名)</p> <p>○ 「理科の観察・実験で困っていること」に対応した実技研修会を開催する。</p>
点検・評価	<p style="text-align: center;">A</p> <hr style="border-top: 1px dashed black;"/> <p>【第1回】6月10日開催</p> <ul style="list-style-type: none"> 活動計画を立案した。理科の授業を実施するうえで困っていることを出し合い、理科実技研修会に向けての内容について検討した。 <p>【第2回】8月6日開催 14名参加 (市内小・中学校教員7名、理科研究委員7名)</p> <ul style="list-style-type: none"> 当日は総合教育センター科学情報部より3名の講師を招いた。研修1は「てこのはたらき(6年)」、研修2は「気体検知管の使い方(6年)」、研修3は「学校周辺の自然観察(3・4年)」とし、楽しい理科学習を進めるための教材の工夫や実験の仕方について研修し、教材の見方や授業展開の構想についての理解を深めた。 参加者からは、「2学期教材ですぐに役に立つ」「昆虫や植物の名前がすぐに調べられる便利なアプリを教えてください、すぐに授業に生かせる」「授業に役立つ研修で、来年も続けてほしい」「小学校の理科の内容を学ぶよい機会となった」等の感想が聞かれた。研修終了後も、日々の理科の授業について互いに相談する場面が見受けられ、有意義な研修会となった。 <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div>
課題・改善	<ul style="list-style-type: none"> 理科は、担任以外の教員が担当するなどして、各校において、研究委員を選出しにくい現状が見られる。また、理科実技研修については、総合教育センター主催の「理科実験・観察訪問研修」等を活用することが可能であり、理科教育研究委員会の存続を検討する。
今後の方向性	<ul style="list-style-type: none"> 令和4年度は継続しない。

事業・研修会名	4－(3) 吉田科学館学習（プラネタリウム学習）									
内容・方策	<p>授業で観察することができない夜空や太陽系惑星、恒星など天体の見かけの動きをプラネタリウムで見ることにより、宇宙や天体への興味・関心を高め、理解を深める。</p> <p>○ 学校、吉田科学館、教育委員会（スクールバス運行）と連絡調整をし、小学4年生・中学3年生のプラネタリウム学習が円滑に行われるよう計画、反省等を行う。</p>									
点検・評価	<p style="text-align: center;">AA</p> <hr style="border-top: 1px dashed black;"/> <ul style="list-style-type: none"> ・参加校 6月～9月 小学校4年生 9校（334人） 12月 中学校3年生 2校（349人） ・事前研修会参加人数 小学校2名 ・教育委員会には、学校や児童生徒の状況に合わせたスクールバスの配車に配慮していただいた。 ・マニュアル投映の効果 <table border="1" data-bbox="491 1003 1321 1137" style="margin-left: 20px;"> <thead> <tr> <th></th> <th>小学校</th> <th>中学校</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>大変参考になった</td> <td>8校</td> <td>2校</td> </tr> <tr> <td>参考になった</td> <td>1校</td> <td>0校</td> </tr> </tbody> </table> <p><その理由></p> <p>小学校：天体の日周運動をしっかりと確認できた。実際に見て観察できないので、助かっている。学校で学習した内容等をプラネタリウムの映像を通して、より具体的なイメージをもって確認することができた。実際の町の風景とリンクされているので、とても分かりやすかった。</p> <p>中学校：既習の内容を踏まえて、天体の動きを確認できた。中学3年間の学習内容の基礎を固めることに有効であった。板書や教科書では平面的にしか伝えられない天体の動きが、ドーム上で立体的に見ることができ理解しやすい。学習内容の予習として見たことで、授業での理解が進んだ。</p>		小学校	中学校	大変参考になった	8校	2校	参考になった	1校	0校
	小学校	中学校								
大変参考になった	8校	2校								
参考になった	1校	0校								
課題・改善	<ul style="list-style-type: none"> ・事前研修会は希望される学校があれば、少数でも続けていく。児童生徒にとって充実した学習になるように、学校の要望を踏まえつつ内容や日程については科学館と、スクールバスの運行については市教委と連絡調整をしていく。 									
今後の方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・課題・改善を踏まえ、令和4年度も継続する。 									

5 迅速な教育サービスの提供

事業・研修会名	5－(1) 情報提供
内容・方策	<p>児童生徒、教職員が、安心・安全によりよい学校生活を送ることができるよう、必要な情報を迅速に提供し、情報の共有化を図る。</p> <p>① 不審者情報が出た場合、市教委と相談のうえ、迅速に学校や公民館等に連絡する。長期休業中の危険・問題行動については、連絡ルートに従って小・中学校に連絡する。 (熊情報については市教委から連絡する)</p> <p>② 報告書や資料の作成については、市教委や各部長(担当校長)と連携しながら取り組む。</p> <p>③ 教育センターだよりを発行し、市内の教員や学校の取組の紹介、市内の教育の動向や教育センターの事業等を紹介する。</p>
点検・評価	<p style="text-align: center;">A</p> <hr style="border-top: 1px dashed black;"/> <p>①について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・不審者情報については、市教委や隣接市町教育センターと連携し、内容について相談しながら、確実に対応することができた。 <p>②について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・報告書や資料の作成、教育センターからの提案については、市教委や校長会等、関係機関に相談しながら進めた。市教委や校長会等、関係機関からは、様々な助言をいただき、それらに基づいて報告書や提案を改善した。 <p>③について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育センターだよりやHP等を通して、教育センターでの研修をはじめとして、新規採用教員の紹介や退職校長からの教育への思い、学力向上拠点校での取組、教員の研修報告等、幅広く紹介することができた。
課題・改善	<ul style="list-style-type: none"> ・不審者情報については、迅速な対応が求められるが、保護者や警察への報告等について当該校と連絡を取り合い、個人情報の配慮や正確な情報提供に努める必要がある。
今後の方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・課題・改善を踏まえ、令和4年度も継続する。

事業・研修会名	5－(2) 視聴覚教材・書籍等の整備や貸し出し、掲示物等の印刷
内容・方策	<p>書籍、教材等を貸し出したり、印刷物を作成したりすることを通して、学校行事の運営や教育指導、教員研修の質的向上を支援する。</p> <p>○ 視聴覚教材、書籍等を購入・整備し、広報活動に努める。 ○ 大型プリンターによる印刷物の作成を迅速に行う。</p>
点検・評価	<p style="text-align: center;">A</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今年度の教材の貸し出しは、以下の通りである。 ※2月末の数値。()内は前年との比較。 ◇視聴覚教材 16件 (－2) ◇プロジェクター等の教具 0件 (±0) ◇WISC-IV等の検査類 1件 (－3) ◇教科書 147冊 (+33) ◇書籍 15冊 (+1) ・大型プリンターによる印刷物の作成 <ul style="list-style-type: none"> ◇垂れ幕 12件 (±0) ・新規に購入した視聴覚教材 (DVD)・書籍等については、「おすすめDVD・書籍」として、印刷・配布して周知に努めた。 ・市教セの研修会の際に受講者に紹介したり、目に付きやすい展示となるように工夫したりと周知に努めた。 ・大型プリンターによる印刷については、職員の連携により、迅速に対応し、依頼の翌日には各校へ提供できるように努めた。
課題・改善	<ul style="list-style-type: none"> ・視聴覚教材や書籍を希望に合わせて購入しているが、貸出希望がない場合が多い。せめて希望を出した方は借りてもらえるようお願いしたい。 ・視聴覚教材や書籍を多くの先生方に利用してもらえるよう、学校が必要とする教材や資料等について最新の教育課題をもとに調査を進め、整備を行うとともに、さらなる広報活動の工夫が必要である。
今後の方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・課題・改善を踏まえ、令和4年度も継続する。